

はじめに

私たちのふるさと栃木県は、雄大な山並みや清流、緑あふれる森林や里山に恵まれ、これらが織りなす四季折々の風景や多様な動植物に親しむことができるなど、自然と身近にふれあいながら、心豊かに暮らせる環境にあります。この自然豊かで美しい“とちぎ”の環境の恵みを楽しむだけでなく、将来の世代にしっかりと引き継ぐことが現代に生きる私たちの責務であるといえます。



一方、私たちを取り巻く環境は様々な問題に直面しております。地球温暖化に起因する気候変動は、令和元年東日本台風をはじめとした大規模な気象災害につながり、その対策は喫緊の課題といえます。また、海洋環境を汚染し、生態系への影響が懸念されるプラスチックごみに対しては、上流にあたる本県においても主体的な取組が求められます。さらに最近では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日常生活や産業活動において大幅な行動の変容を余儀なくされている現状があります。私たちは、これらの問題の影響・被害を最小限に抑えながら、より自然豊かで快適な環境を創造し、未来に引き継いでいかななくてはなりません。

平成28（2016）年に策定した「栃木県環境基本計画」では、「守り、育て、活かす、環境立県とちぎ」を将来像に掲げております。この計画に基づき、環境保全と地域資源活用を促進する各種取組を、県民・事業者とともに展開して参りました。今年度は本計画の最終年度であり、これまでの取組の成果と課題や、「持続可能な開発目標（SDGs）」などの時代の潮流を十分に踏まえながら、新しい計画の策定を進めて参ります。

この「栃木県環境白書」は、本県の環境の状況や、「栃木県環境基本計画」に基づいて令和元（2019）年度に県が実施した施策などについてまとめたものです。本書を手にとった皆様が環境への理解を深め、さらには環境を「守り、育て、活かす」行動につなげていただければ幸いです。

令和2（2020）年9月

栃木県知事

福田 富一